

# 新宮町新体育館建設基本構想 【概要版】

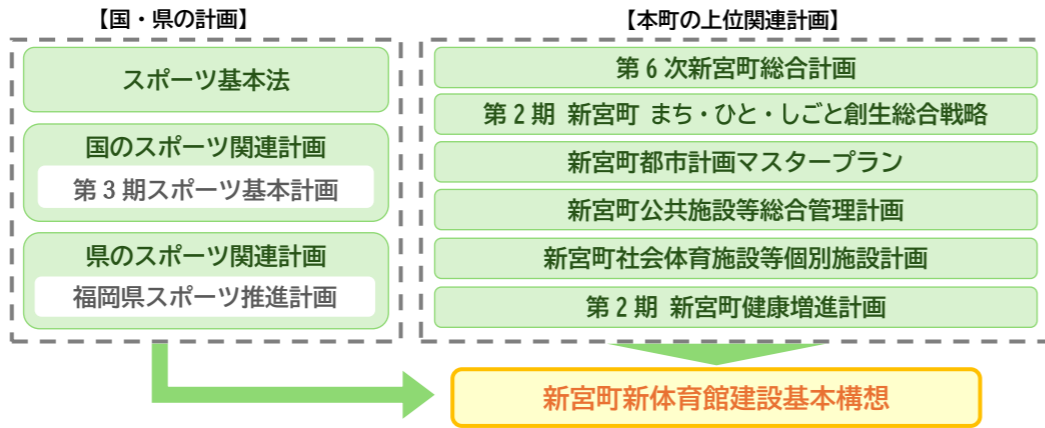
## 1. 基本構想の策定に当たって

### ■背景と目的

- 現在、町内の体育館は、いずれも小中学校の敷地内にあるため、学校活動等により町民の利用が制限されています。建設してから約60年が経過しており、設備が古くなっていることや利用制限がある運用状況から、利用者が満足して活動できている状況ではなく、新宮町スポーツ協会等の利用者からは体育館の再整備を望む声が多くあります。これを受けて、新宮町では令和6年10月に「新宮町新体育館建設庁内検討委員会」を設置し、新体育館建設事業の実施が望ましいとの結論に至りました。
- 本基本構想は、町内の社会体育施設の現状や町民ニーズ等を幅広く捉えた上で、新体育館建設の基本方針や施設規模、候補地、導入機能などについて、基本的な考え方を定めたものです。

### ■基本構想の位置づけ

- 「第6次新宮町総合計画」を最上位の計画とし、右記の町の上位関連計画を踏まえるとともに、国や県の関連計画も踏まえながら検討します。



## 2. 体育施設の現状と課題

### ■施設の現状

- 町内には、一般に貸出を行っている体育館が7施設ありますが、いずれも小中学校の敷地内にあるため、学校活動等により町民の利用が制限されている状況です。建築から30年以上が経過している施設が多く、空調等の設備が整っていない施設もあるほか、公式競技が可能なコートサイズの確保や必要不可欠なラインが明示できない競技種目も存在し、競技者育成の観点からも良好な環境が整っているとは言い難い状況です。

▼町内体育館の建物概要

施設名	延床面積㎡	建築年度	築年数	主構造
町民体育館	974	1965年	60年	鉄筋コンクリート造
新宮中学校体育館	1,688	1985年	40年	鉄筋コンクリート造
新宮東中学校体育館	2,563	2018年	7年	鉄筋コンクリート造
立花小学校体育館	966	1980年	45年	鉄筋コンクリート造
新宮小学校体育館	1,000	1971年	54年	鉄筋コンクリート造
新宮東小学校体育館	1,232	1989年	36年	鉄筋コンクリート造
新宮北小学校体育館	2,357	2016年	9年	鉄筋コンクリート造

### ■利用状況

- 年間利用率は、立花小学校以外は9割以上と、ほぼ毎日利用されています。時間帯別に見ると、19時～20時の利用が多い傾向にあります。
- スポーツ団体、サークル活動での定期的な利用で施設が最大限に活用されている一方、すぐに予約が埋まってしまうため、一般の不定期な利用での予約が取りづらい状況にあります。

### ■町民・関連団体ニーズ

- 新体育館の利用意向や施設ニーズ等を把握するため、町民、体育館等の利用団体、町外からの来訪者、近隣大学生にアンケート調査や新宮町スポーツ協会へヒアリング調査を実施しました。
- アンケート結果からは、町民・町外者ともに新体育館の利用意向は高く、健康づくりやスポーツ大会の開催、防災拠点としての機能へのニーズが高いことが確認されました。

### ■課題と新体育館整備の必要性

本町における体育施設の現状や町民・関係団体等のニーズ、上位関連計画との整合性を踏まえると、本町における体育施設の課題として次の5つが挙げられます。

- 課題1：競技者育成に資する良好なスポーツ環境の確保
- 課題2：快適なスポーツ観戦環境の確保
- 課題3：利用需要に対応した柔軟なスポーツ環境の確保
- 課題4：スポーツを通じた交流が図れる環境の創出
- 課題5：複数施設の一体的活用による充実した防災活動拠点の創出

これらの課題を解決するため

新体育館を整備する必要がある

## 3. 新体育館整備の基本的な考え方

### ■基本方針

本町が抱える課題や国・県の計画にあるスポーツ振興の考えを踏まえ、新体育館整備に向けたキャッチフレーズと4つの基本方針を次のように定めます。

## 人がつながり 未来を育む シン×体育館

— 親しみ・進化・信頼・安心の新たな拠点へ —

新宮町の新しい体育館は、「シン」をキーワードに、町の未来を育む拠点として整備します。この「シン」には、新宮町の頭文字である「新」とともに「新（あたらしい）」「親（したしみ）」「進（しんか）」「信（しんらい）」「心（あんしん）」という想いが込められています。たくさんの人が快適に健康づくりに「親しめる」施設として利用でき、時代やニーズに合わせて「進化」し、スポーツの持つ楽しさや感動、一体感をいつまでも生み出し続ける体育館を目指します。また、スポーツに限らず地域活動など多様な催しを通じて、人と人が出会い、「信頼」の輪が広がり、災害時には避難や支援の拠点として地域の「安心」を守る新宮町の「新しい」象徴として、まちの活力と未来を育んでいきます。

### 基本方針① 誰もが気軽にスポーツや健康づくりに親しめる施設

年齢、性別、体力、障がいの有無にかかわらず、町民の誰もが健康増進や生きがいづくりなどに安心して親しめる施設を目指します。また、既存の公共施設や地域のスポーツ環境との機能の調和を図り、生涯にわたってスポーツ活動に取り組める環境づくりを推進する施設としての役割を担います。

### 基本方針② 時代やニーズに応じてスポーツ環境が進化する施設

各種スポーツ大会やイベントの開催に対応した機能を備えることで、「する」「みる」「ささえる」など多様な立場の人々が快適に利用でき、よりスポーツの楽しさや感動、一体感を生み出す施設を目指します。また、時代の変化や多様化するニーズを的確に捉え、現在のスポーツ環境を段階的かつ持続的に進化させることで、町民のスポーツ振興を図ります。

さらに、他のスポーツ施設等との連携や機能の集約による相乗効果を発揮し、多様なスポーツ活動による賑わいの創出を図ります。

### 基本方針③ 多様な交流で信頼の輪を広げ地域を活性化させる施設

スポーツに限らず、地域活動など多様な催しを通じて、世代や立場を超えた人々が集い、交流と賑わいの創出を図ります。

また、周辺環境とのつながりを活かしながら、日常的に立ち寄れる開かれた交流拠点として、地域の活力向上に寄与し、人と人との信頼の輪を広げられる施設を目指します。

### 基本方針④ 地域の安全・安心を支える施設

災害時に使用する物資の保管や長期避難場所として活用する等、大規模災害時にも必要な支援ができ、町全体の防災機能の強化に資する施設を目指します。

# 新宮町新体育館建設基本構想 【概要版】

## ■新体育館に必要な基本的機能

新体育館の整備に向けた4つの基本方針を踏まえ、新体育館に備えるべき導入機能と各機能に対応する想定諸室を以下のとおり定めます。新体育館の施設規模（延べ床面積）については、必要不可欠な諸室を整備した場合は約5,000㎡、引き続き必要性を検討していく諸室を含めると約7,500㎡を想定していますが、今後策定する基本計画において詳細な規模を決定します。

▼新体育館の導入機能及び想定諸室

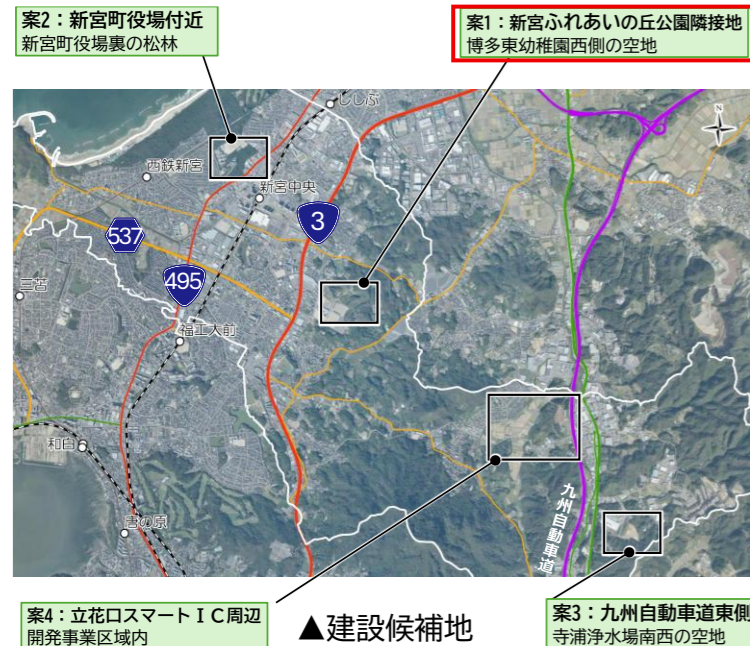
屋内/屋外	導入機能	想定諸室
屋内	競技機能	●メインアリーナ ●サブアリーナ ●観客席 (弓道場) / (相撲場)
	運動機能	(多目的室) / (トレーニングルーム) / (ランニング・ウォーキングコース)
	研修機能	(会議室) / (研修室) / (宿泊室)
	子育て機能	●キッズルーム ●授乳室
	交流機能	●多目的ラウンジ・ホワイエ (カフェ・コンビニ)
	防災機能	●防災機能を備えた諸室
	管理機能	●管理事務室 ●応接室 ●会議室
	その他の機能	●シャワー・更衣室
屋外	交流機能	(イベント広場・オープンスペース)
	交通機能	●駐車場 ●駐輪場 ●バス・タクシー等乗降場

※●は必要不可欠な諸室、( ) 書きは引き続き必要性を検討していく諸室

## 4. 建設計画の方針

### ■建設候補地

4つの候補地について、「まちづくり」、「交通利便性」、「敷地条件」、「防災性」、「法的制約条件」、「経済性」の6つの評価指標により比較検討を行いました。評価の結果、案1（新宮ふれあいの丘公園隣接地）を建設地として検討を進めていくこととします。



▼候補地の比較評価

区分	評価項目	評価			
		案1	案2	案3	案4
まちづくり	将来のまちづくりの整合性	◎ 5	○ 3	○ 3	◎ 5
	スポーツ施設としての拠点性及び多様な機能の集約性	◎ 5	○ 3	△ 1	△ 1
交通利便性	町中心部からのアクセス	○ 3	◎ 5	△ 1	△ 1
	交通渋滞発生リスク	◎ 5	△ 1	◎ 5	◎ 5
敷地条件	敷地面積の規模や拡張性の有無	◎ 5	◎ 5	○ 3	◎ 5
防災性	ハザードマップによる評価	◎ 5	◎ 5	◎ 5	○ 3
法的制約条件	土地利用上の法的な制約条件	○ 3	○ 3	○ 3	△ 1
経済性	事業費用の増加リスク	○ 3	△ 1	○ 3	△ 1
合計		34	26	24	22

## ■周辺施設との連携

建設地周辺には、新宮ふれあいの丘公園グラウンドをはじめ、新宮東中学校や博多東幼稚園、ふれあい交流館、屋内テニス場など、様々な機能を持った施設が立地しています。新宮ふれあいの丘公園及びその周辺施設に隣接して新体育館を整備した場合に発揮する相乗効果のイメージは以下のとおりです。



▲周辺施設との連携イメージ

### ①周辺施設との連携によるスポーツイベント等を通じた一体感の創出

・既存のグラウンドとの一体利用により、大規模なスポーツイベントやスポーツ以外のイベントの開催が可能となり、行政・住民・学校・スポーツ団体等が協働する機会が増えることで、地域のつながりや賑わい、一体感を創出します。  
・また、屋外スポーツの練習や運動会等の学校行事において、雨天時や猛暑日等でも安心して子どもがスポーツに取り組める良好な環境を提供することで、運動・スポーツ活動への参加を促進します。

### ②近隣公園等との連携による滞在空間創出と多様な交流

・子育て世代や高齢者等、多様な世代が集まる第2グラウンドや公園区域拡張予定地等と有機的・動線的に結ぶことで、体育館と公園等との一体的な滞在価値を生み出し、双方の利用者が自然に集い、くつろぎと賑わいをもたらす空間を創出します。  
・また、施設間の回遊性が高まることで、様々な場面で多様な交流が生まれ、子どもの育成や高齢者の健康増進の機会を創出します。

### ③新宮ふれあいの丘公園等の防災活動拠点との連携による防災機能の強化

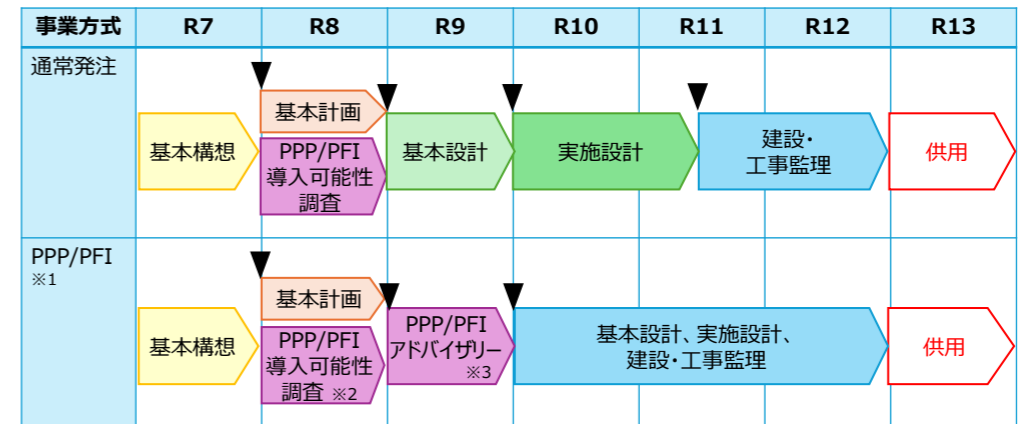
・町の防災活動拠点として位置づけられている新宮ふれあいの丘公園や新宮東中学校と一体となり、災害時の避難活動に必要な支援機能を充実させることで、町内全域の安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。  
・また、平時における周辺施設との連携・交流により、社会的な一体感や信頼関係を高め、災害時において共助意識の高いコミュニティを形成します。

## 5. 事業計画の方針

### ■事業スケジュール（案）

新体育館建設までの流れと事業スケジュールは以下を想定しています。なお、PPP/PFIの場合、基本設計・実施設計・建設工事を一括で発注できるため、事業期間を短縮できる可能性があります。

▼事業方式別スケジュール（例）



▼：発注作業

- ※1 PPPとは、民間のノウハウを活用して公共サービスの提供を行うことをいい、PFIはその代表的な手法のひとつで民間資金で公共施設を整備・運営することをいう。
- ※2 導入可能性調査とは、事業目的や施設条件、民間活用余地、導入効果、リスク分担等を整理し、PPP/PFI手法の適否や事業方式を検証する初期調査のことをいう。
- ※3 アドバイザリー業務とは、導入可能性調査結果を踏まえ、事業スキーム具体化、要求水準・契約条件整理、事業者選定・契約締結までを専門的に支援する業務のことをいう。